

2022
春号

千の声 VOICE

NO.16

3歳からは全員、学校に行く～無償の保育学校～ ●「フランスはどう少子化を克服したか」

高崎順子 / 新潮新書

少子化に悩む先進国から、子育て大国へ。大転換のカギは、手厚い支援策の根幹を貫く新発想だった。「2週間で男を父親にする」「子供はお腹を痛めて産まなくていい」「保育園に連絡帳は要らない」「3歳からは全員、学校に行く」。パリ郊外で二児を育てる著者が、現地の実情と生の声を徹底レポート。日本の保育の意外な手厚さ、行き過ぎにも気づかされる。日本でも、保育と教育を一貫してつなぐ国の制度ができれば…。これからの日本の育児や教育の未来を考えるうえで参考になりたい一書である。



目次

はじめに

第1章 男を2週間で父親にする 17

あちこちに子連れパパが/14日間の「男の産休」/「赤ちゃん」と知り合う時間/毎晩ゲーム機に向かった夫/妻と時間差で取る産休/父親産休を受け入れる、職場の考え方/家族政策の転換/育児の先生は助産師/父親にも産後うつが/分担育児の行き過ぎ/育児男性はわずか2%/日本における、父親への取り組み

第2章 子供は「お腹を痛めて」産まなくてもいい 54

まさかの無痛分娩/より良いスタートのために/医療側の負担も軽減/ローマ法王も無痛分娩/無痛分娩のデメリット/「無痛分娩の権利」を維持するために/無痛分娩で出生率が上がる/半数が「出産に満足していない」/妊婦健診に財布はいらない/その医療費は誰が出しているのか/産休手当も医療保険の負担/気軽に「母子保護センター」へ/妊婦と乳幼児は社会的弱者

第3章 保育園には、連絡帳も運動会もない 89

毎日の持ち物リスト?/フランスならストライキ……/保護者負担は最低限に/保育園第一号/保育園はすべて認可園/「保育士」資格は一つではない/「ここは集団生活の場」/東京より厳しい?パリの保活

第4章 ベビーシッターの進化形「母親アシスタント」 116

母親アシスタントとは何か/「問題は、母親アシスタントの夫」/雇用までの6ステップ/共同ベビーシッターという手段/それぞれ幾ら掛かるのか/保育園に入れるのは誰なのか/政権も推奨母親アシスタント/「企業株」という新ビジネスモデル/社員の意識が保育事情を変える/前向きに発想を転換してみる/もし連絡帳をなくしたら?

第5章 3歳からは全員、学校に行く 159

就学率ほぼ100%、無償の教育/入学の条件は二つ/週24時間を過ごす教室/午前2時限、午後1時限/「生徒になること」を学ぶ/5歳までに5つの学習分野を/初めての成績表/年間テーマは「人類の歴史」/「教育係」と「世話係」/保護者参加は、やりたい人だけ/始まりは教会の保護施設/早期公教育で格差是正を/「国の保証する権利」の使いみち

おわりに 205

出典・参考資料一覧 209

保育学校 5分野での学習目標 217

第1章 男を2週間で父親にする 17

14日間の「男の産休」 20

赤ちゃんの誕生後、サラリーマンの父親には3日間の出産有給休暇があります。原型となる法律は1946年に制定された、由緒正しき有給休暇です。休暇中の給料はもちろん、雇い主が負担します。拒んだ雇い主には罰金があり、取得率はほぼ100%。この3日間は、お父さんトレーニングの本格的な第一歩。沐浴やおむつかえなど、入院中に助産師指導で進められるスケジュールは、父親の来院時間に合わせて組まれていきます。目標は退院時、父親も母親と同じくらい赤ちゃんのお世話をできるようになること。ミルク育児を選んだ家庭ではもちろん、ミルク作りや授乳のコツなども、父母が揃って教わります。出産有給休暇が終わった男性には、今度は11日連続の「子供の受け入れ及び父親休暇」が待っています。二つの休暇を合わせた2週間が、一般的な「男の産休」です。父親休暇は労働法と社会保険法に定められた制度で、これも雇用主が拒むことはできません。父親の産休2週間の給料は、3日間は雇用主が、11日間は国がまかない、有給休暇となっています。

育児の先生は助産師 35

ここ10年で育児の現場に躍り出ることになったフランスの父親たち。歴史が浅い上に前例のない「お父さんの育児」をサポートする第一の存在が、助産師です。赤ちゃんの誕生後の入院期間中、産婦人科でお世話のイロハを教える他、誕生前の妊娠期間にも、「男を父親にする」いろいろな活動をしています。フランスの助産師は、上級の医療専門職。高校卒業後、医師や薬剤師・歯科医志望者と同じ学校で初期医療教育を1年間受けた後、選抜試験を突破して助産師学校に入学、そこで4年間の専門教育を経て、助産師資格を得ます。「助産師の仕事は大きく分けて、二つ。陣痛の痛みをやわらげつつ無事に分娩させることと、親たちに寄り添うこと。妊婦健診や出産に関する医療技術はもちろんですが、それと同じくらい、父母の心理面をケアする技術も必要なんです。特に父親のケアの重

要性は、年々上がっているように感じますね」妊娠期間中は、健診の他に助産師さんたちが運営する「出産準備クラス」があり、父親と母親が二人で参加する会が準備されていました。仕事帰りにスーツで参加している男性陣は、頼りなげだったり、逆に「あなたが産むんですか？」と聞きたくなるくらいの熱心さでメモを取っていたり。臨月のお腹を抱えた 50 組以上のカップルが居並ぶ風景は圧巻で、とても印象に残っています。フランスの出産準備クラスは、国の高等医療審議会が監督していて、正式名称は「子の誕生と親になるにあたっての準備クラス」と言います。運営に関しては、審議会が助産師を対象に詳細な勧告書を作成。その勧告書には、このクラスが妊婦だけではなく、そのパートナーの男性も対象としていることが明記されているのです。

第 3 章 保育園には、連絡帳も運動会もない 89

保護者の負担は最低限に 95

フランスの保育園は、「子供が健やかに発育するところ」とであると同時に、「保護者の負担を軽減するところ」。保護者は朝、子供を年齢別の保育室まで連れて行き、担当の保育スタッフと「その日の子供の状態」について話をします。夕方にお迎えに行くと、保育スタッフが食事や昼寝、排泄状況などを保護者に報告。これは口頭のみで行われます。子供が洋服を着替えるのは食事や排泄などで濡れてしまった時だけで、その場合は汚れた服がビニール袋（園配布）に入れて返されます。本人に不快がない程度の汚れであれば、着替えずにそのままです。保護者会はなく、他の保護者と交わす会話は毎朝毎夕のご挨拶程度。日々のやりとり以外の保育園とのつながりは、年に 1 回の説明会、年 1 回の個人面談、年に 2 回の季節の行事（クリスマスと年度末のお祭り）に限られます。その行事の運営にも基本的に保護者が参加することはなく、「ご招待」での出席でした。保護者に対して最低限のことしか求めない考え方は、フランスにおける保育の始まりに由来しているようです。

保育園第一号 96

公的な保育園第一号が誕生したのは 1844 年、パリ。1830 年代から本格化した工業社会で、給与労働者として働く母親が急増した時期でした。1840 年代のフランスではすでに、2 歳以上の「つきっきりで手のかからなくなった子供」を保育・教育する「保護室」が設けられ、全国で 500 軒以上運営されていました。これは 3 歳になると全児童が入学できる現在の「保育学校」の前身で、1826 年に誕生し、1840 年には約 5 万人の幼児がここに通っていたといえます。ところが、出生直後から 2 歳までの託児環境はまったく整っておらず、母親は仕事を辞めて子守に徹するのが第一の選択肢でした。経済的にそれが許されない母親は、何人もの子供をまとめて世話する乳母（劣悪な環境も多かった）に預けるか、教会などの運営する乳児院に託すか、年上のきょうだいを学校に行かせないで子守をさせるか。きょうだいがいない家庭では、赤ちゃんだけを一人で家に置いていくケースも多く、事故が絶えませんでした。最悪の場合では捨て子や殺人に発展することもあり、働く母親を持つ乳幼児の劣悪な環境は、社会問題になっていたのです。労働者階級の悲劇を前に行動を起こしたのが、パリ一区副区長のフィルマン・マルボーでした。「保育料は安く、健康的な環境で、知見に基づいた世話を施す。幼児に優しい、改善された託児施設」。そう願って設立した保育園は、行政や報道機関、学者の間でも非常に好意的に受け入れられたといえます。翌年にはパリで 5 軒の保育園が新設され、2 年後にはその波は地方の 7 都市にも広がります。新設の音頭取りは行政が行いましたが、その運営には慈善家が多く参加し、運営費にも個人篤志家の寄付が大きく貢献したそうです。保育園は乳幼児を劣悪な環境から救済する場で、同時に「保護者が働くことへの援助」である—その理念は、保育園の草創期から明確だったわけです。保護者が働くことを支援するために作られた施設である以上、そこで負担を増やすのは本末転倒、フランス人には理解できない論理と言えるのです。

東京より厳しい？パリの保活 110

100 年以上の歴史を持ち、効率よく運営されているフランスの保育園ですが、その恩恵に与れる家族が限られていることは、日本ではあまり知られていないのではないのでしょうか。3 歳未満の幼児数に対して全国の保育園定員数は約 16%と、絶対数が少ないのです。日本はどうかと言うと、全国の就学前児（0～5 歳児）の人口に対する保育園定員数は認可園分が 40.5%、認可外保育所分が 2.7%。ここに幼稚園も加わります。保育枠の割り振りは年に数回開催される、自治体の検討委員会で行われます。親の就業状況や収入、家族構成、子供の月例・年齢などを考慮するといいますが、多くの自治体はその基準を明らかにしていません。万が一落選した場合、そこから新たな預け先を探しては遅いので、同時進行で別の保育手段を探しておきます。そしてその「保育園以外の保育手段」の方が、実は、フランスでは多数派なのです。その代表格が母親アシスタント、認可を得た成人が、自宅で数名の子供を預かる少人数保育です。フランスでは、この母親アシスタントが提供する保育枠は約 98 万人、保育園定員の 2.5 倍にも上ります。最初から保育園枠は考えず、母親アシスタントや共同ベビーシッターを探す人も、少なからずいます。フランスでは合法的な契約であれば、保育園以外の保育手段にも補助金が与えられるので、そちらを選ぶ心理的なハードルが低くなっているのです。また 3 歳になる年の 9 月から全入の保育学校が始まるので、保育手段が必要なのは、産休明けから保育学校まで、最長で約 3 年間。その「期間限定」の感覚が、一つの保育手段にとらわれない柔軟性を後押ししているとも考えられます。

第5章 3歳からは全員、学校に行く 159

就学率ほぼ100%、無償の教育 159

この国で生活する3歳児・4歳児・5歳児なら誰でも通うことができる、無償の学校。教材や文房具はすべて学校から支給されます。2016年現在でフランス全土に1万5216校あり、3～5歳児のほぼ全員が通っています。教育方針は日本の文部科学省に相当する国家教育省が定めており、教員はみな国家教員免状の持ち主です。保育学校は名実ともに「3歳からは国が子供の面倒を見るシステム」で、言い換えれば、フランスには3歳以上の待機児童が存在しないということ。

入学の条件は二つ 161

フランスの新学期の開始は9月で、「ある年の1月から12月までに生まれた子供」が、1学年とされます。入学条件は二つ。おむつが取れていることと、在住の市町村に入学希望を出すことです。誰でも入学できる公立校ということから、生徒の出自や社会階層のバラエティはとても豊か。外国出身の母親に3歳まで家で育てられた子は、フランス語をあまり理解できないまま入学してくることもあります。加えて2～3歳児はまだ月齢によって発達具合が大きく異なる時期。能力が不揃いで、「同じようにはできない」子供たちが集まっていることが、保育学校の前提条件です。

「生徒になること」を学ぶ 171

保育学校の入学前に保育園を経験してきた子供は、全体で見ればわずか16%に過ぎません。他の大多数は、母親アシスタントやベビーシッターなど、少人数・家庭的な環境で過ごしてきました。彼らをどのように、集団の学校生活に適応させていくのでしょうか。保育学校は義務教育ではない。しかしその後続く教育課程で、他者とともに学び成長するための、重要な基盤を築く場所である。まず、「学校」という場所を知る。そこへ行く楽しさを知る。そのために子供たちの幼さを容認し、年齢と発達に見合った扱いをする—保育学校の3年間は「生徒になること」「学校に行くこと」を学ぶ期間で、ここでポジティブな経験ができるかどうか、その後の長い義務教育時代を左右すると考えられています。この国では0～2歳児関連の政策は「家族・子供・女性の権利省」、3歳以上の児童関連の政策は国家教育省が担当します。0～2歳までは「保育」ですが、3歳からは「教育」の対象なのです。

5歳までに5つの学習分野を 174

3歳から5歳の3年間は、教育の重要なファーストステップ。そこで身につけるものとして、国家教育省は以下の5分野を掲げています。1.あらゆる場面での言葉を使わせる 2.体を動かして意思を表現し、理解する 3.芸術を通して意思を表現し、理解する 4.自分でものを考えるための基本技術を身につける 1)数を使う 2)数を学ぶ 3)図形を学ぶ 5.世界を知る 1)時間と空間 2)生物と無生物 3)生活習慣—この5つを学ばせるにあたり、4点の学習方式が重視されています。—遊びながら学ばせる/自分で考えさせる/体に覚えさせる/記憶させる—卒業時までの、各5分野での学習目標も定められています。(巻末P217～215参照)これらの目標は、6歳からの初等義務教育(小学校)開始時に備えていることが望ましい能力とされています。つまり小学校への能力的な下地が、保育学校に通うことで整えられるようになっている、ということです。

初めての成績表 176

学習目標の大枠は入学時の保護者会で説明されますが、細かい項目までは伝えられません。保護者がそれを目の当たりにするのは、保育学校の卒業時、成績表に当たる「習得概括表」が配られる時です。それぞれの目標に対して、「未習得」「習得中」「習得済み」の三段階評価がなされます。成績表は3年間共通で、この1冊で3年間の進歩が見えるようになっています。この成績表は卒業後、進学する小学校に渡すことが定められており、児童の発達具合を保育学校から小学校へ申し渡す、カルテ的な役割も担っています。

「国の保障する権利」の使いみち 202

2014年、3歳から6歳児の教育政策に使われた公的資金は約154億ユーロ、日本円にして約1兆9千億円。0～3歳児の保育政策とほぼ同じ予算が分配されています。そのうちの半額が、国家教育省の負担です。義務教育前の子供たちを二つの年齢に分け、その扱いを変えてはいるものの、国としては同じだけ重点を置いて対策を取っている様子が、数字から見て取れます。3歳児からは「保育」ではなく「公教育」の対象と考える。これは私の生まれ育った日本にはない視点でした。もし日本で、保育と教育を一貫してつなぐ国の制度ができたなら—。待機児童問題の改善に加え、小学校以前からの教育の土台になるでしょう。社会格差の問題を是正する手段ともなりえるかもしれません。フランスの保育学校から得られる一番の示唆は、「初めは個人の熱意だった」ということではないか、と思っています。社会を変えることを諦めず、一人が仲間を募り、熱意を集めて形にすれば、いつかはそれが「国の保障する権利」にまで成長する。個人の熱意が実って、国を動かし、生活が変わっていく。そして国の未来を支える。この事実を知るだけでも、今の日本社会にとって、力強い励ましになるのではないかと思います。

『世界のともだち インドネシア』 25

“バリの踊り子 マン・アユ”

写真・文 石川梵/偕成社



マン・アユはインドネシアのバリ島、ウブド村に住む 10 才の女の子です。お父さんは、ウブド村にあるモンキー・フォレストという自然保護区で機械の修理の仕事をしています。お母さんは、おみやげやをいとなんでいて、マン・アユもときどき店番のお手伝いをします。お母さんは、わかいころ、バリの伝統的な踊りの踊り子でした。マン・アユも小さいころから踊りを習い、小学校 2 年生から、お祭りやお寺でひらかれる舞踏ショーに週 2 回出演するようになりました。立派な踊り子になるのが、彼女の夢です。お父さんも、そのショーにケチャという合唱のメンバーとして参加しています。バリ島はインドネシアではめずらしい、バリ・ヒンドゥー教の島です。バリ島は森や海など、ゆたかな自然にはぐくまれています。神さまに祈ることは、そのめぐみに感謝することで、ごはんを食べることと同じくらいあたりまえのことです。踊りは、お祭りや宗教儀式の一部となっているので、バリではだれもが踊りを習います。目の大きなマン・アユは、目で気持ちを表現するバリの踊りにむいており、とても表現力がゆたかなので、将来が楽しみだと先生は言います。

これまででいちばんうれしかったのは、舞台にでて、はじめて出演料をもらったこと。もらったお金は使わずに、将来のために貯金しています。マン・アユの家はむかしながらのバリ式。中庭をかこむようにして、独立した部屋がならび、小さなお寺もあります。家の中心には「バレ・ダンギン」という壁のないたてものがあり、さまざまな儀式をここで行います。彼女の 1 日は、お祈りではじまります。制服を着て朝ごはんを食べ、歯をみがき、学校へ行くしたくができたなら、「チャナン」を作ります。チャナンは神様のおそなえもので、ヤシやバナナの葉でできた小さなお皿に、花やごはんをのせます。バリ・ヒンドゥー教の世界ではあらゆるところに神様がいてと考えられていて、お供えをしてお祈りをする場所は 20 か所以上にもなります。お供えものとお祈りが全部おわったら、お母さんのスクーターにまたがり、大好きな学校へ行きます。7 時から朝礼があり、広い中庭に学校の全員があつまり、国旗をあげてお祈りをし、先生のお話を聞きます。授業は 7 時半からはじまり、12 時 40 分には下校時間となるので、お弁当をもってくる子はあまりいません。朝ごはんを食べる時間がなかった子たちは、休み時間に学校の中にある売店で買って食べます。バリ島では毎週のようにお祭りがあり、学校でもいくつものお祭りが行われます。お祭りの日は、みんな正装で登校し、家からチャナンを持っていきます。いつもはうるさいくらいの子どもたちが、しずかに手をあわせて祈りをささげます。しばらくすると、バリ島の伝統音楽、ガムランがながれ、えらばれた踊り子たちが神様にささげる舞を踊りはじめます。ほこらしげに踊るマン・アユのすがたもみえました。バリの踊り子として活躍する世界のお友達の日常をぜひのぞいてみてください。(要約：K.M.)

『世界のともだち ミャンマー』 26

“湖の上でくらすスミンミャ”

写真・文 森枝卓士/偕成社



ミャンマー、シャン州には色々な民族がすんでいます。10 才のスミンミャたちは「インダー族」といい、インレー湖の上とまわりに住み、独特の文化を持っています。スミンミャの家は湖の上にたっています。たずねて行くときは、舟でいきます。車のガレージのように、舟を 2, 3 艘とめておけるようになっていて、どこの家にも、遠くまでいけるエンジンがついた大きめの舟と、ちょっと近所に行くためのエンジンのない舟があります。スミンミャの家には冷蔵庫がありません。だから、お肉やお魚が食べられるのは市場の開いている日です。暑いところなので、そのままおいておいたら、くさってしまいます。市場のない日は、野菜とたまごや豆腐(とうふ)、納豆などを料理します。台所には水道がないので、洗い物などは外にある水のタンクのところにまでいかなくてはなりません。飲み水のタンクから水を運ぶのは、スミンミャの役目です。湖の上にいるからこそ、水の使い方にはくふうがあります。飲み水は、湖の地下からとっています。土の層でろ過されて、人が飲める水になっています。タンクにためたきれいな雨水は、料理や歯磨きに、洗たくは最

初は湖の水で洗い、最後は雨水ですすぎます。スミンミャも湖で泳いだあと、きれいな雨水をかぶり洗います。スミンミャは学校が大好き。そして、自分よりも小さい子の世話をするのが好きなので、小学校の先生になりたいと思っています。しかし、お父さんは「スミンミャは勉強がよくできるので、ヤンゴンのような都会のいい大学に入って、外国にでていけるような仕事についてほしい」とと思っています。学校の勉強では、とくに国語がとくい。本を読むのが好きで、歴史など、むかしの物語を楽しんでいます。そして、服やファッションにも興味があります。朝、起きたら歯をみがき、ごはんを食べて学校へ。ただ、日によっては学校の前に塾があります。学校へいくのはサンダル履き。ぬれることが多いところでは、くつをあんまりはきません。必ずもっていくのが、お気に入りのかさ。太陽がでると強い日差しなので、女の子に日がさしかかせません。スミンミャの家は学校から近いので、歩いていきますが、家が遠い友だちは家族に舟で送ってもらいます。ねっしんな仏教徒が多い国なので、朝はみんなで教室に集まって、仏教のお祈りではじまります。湖の上でくらす子どもたちにとって、学校の校庭は数少ない走りまわれる場所です。でも、外遊びをしているのは、下級生の男の子ばかり。上級生のスミンミャたちは絵本やマンガを読んでいます。インダー族もねっしんな仏教徒です。この仏教では、お坊さんたちはお寺でごはんを作ったりしてはいけません。湖の村では、村の人たちがかわりばんこで、ごはんをもってお寺へ行きます。食べてもらって、お祈りをしたり、えらいお坊さんのお話をきいてすごします。これは、ミャンマーの人たちにはだいじな時間で、スミンミャの一家にとっても同じこと。仏教が生きていることの一部なのです。湖の上でくふうをしながらかしくらす世界のお友達の日常がえがかれています。(要約：K.M.)

□世界を通過中 ～パナマ運河～

石川先生からタイトルまで付いた連載のご依頼をいただき、何だか、日テレの人気番組『世界の果てまでイッテQ!』に似たような響きとは感じながらも、そこは気にしなかったことにしておいて・・・船の上で世界の海(地球の海)をあっちにこっちに走り回っているところから見える様子をお伝えすることが出来ればと思います。

さてさっそく、本船は1月中旬にアメリカから荷物を積んでパナマ運河を経由してから太平洋を横断、2月中旬から下旬にかけてバタバタと日本の3つの港に寄港して揚げ荷をしてから再びアメリカに向けて出港しました。現在太平洋を東へ東へ航行中です。■今回はアメリカ東海岸から日本へ貨物を運ぶときに通るパナマ運河の様子をご紹介します。とは言っても、パナマ運河の仕組みなどはネットに沢山出ているので、説明的なものはそちらに譲るとして・・・どんな様子で船が通るのかをご紹介します。■前回1月下旬のパナマ通狭は大西洋(カリブ海)側から太平洋に出る南航でした。運河通過は1日かかりです。前日の夜には運河の北側の港クリストバルに到着、早朝から動き出してPilotを乗せ、順次水門を抜けていきます。同じころ南側の港バルボアからも北航船が同じように水門を抜けて来ます。ガソン湖でこの北航船とすれ違いながら進み、運河南側の水門を抜けると太平洋に出ます。■私はもっぱら機関室でエンジンの状態などを見ているので外の景色は昼食の時にちらっと見るくらいなのですが、船幅ギリギリの水門を通る時は船体に傷がつかないか冷や冷やモノです。船体に傷がついて塗装がはがれてしまうと、汚れが付いたり錆びたりして船の推進性能が悪くなってしまいますから・・・■パナマ運河といえば電動機関車で船を引っ張りながら水門を抜けていく様子が有名ですが、前回私たちが通った水門は2016年に新しく作られた拡張パナマの水門で、従来より幅広になっています。電動機関車もなく、タグボートで引っ張ったりしながら進んで行きます。■電動機関車にしても、タグボートにしても、船の係船索(もやいロープですね)を着陸の時と同じよう沢山使いますので、船の乗組員に加えて、ラインマンと呼ばれる現地の綱取りサポート役が20名ほど乗船してきます。水門を通る時には船のロープをあっちに出して、こっちを緩めてと動き回っていますが、ガソン湖通過中などは意外と暇でデッキの上の日陰で寝っ転がって仲間同士で喋ったり昼寝をしているようです。■機関長としては常にエンジンの発停や速度を変えられるように機関室の様々な機械の運転を維持しておかないといけないので結構気を使います。まあ、大抵問題ないのですが、いざという時のために、というところが大きいです。■近頃は中東だけでなく、(シェールガスの採掘という新たな技術が開発されて以降は)アメリカからの液化ガス輸送が増えて、これらを運ぶ船がパナマを通る機会も増えていますが、今回のロシア・ウクライナの件でアメリカから欧州向けの供給が増えると、アジア向けの量は減る可能性もありますね。■日本に限らず世界のエネルギーバランスはかつての大戦を終えて時間が経っても今なお、国家間の取引のカードになっています。温暖化だからクリーンエネルギーが必要だの何だと言えるのも、世界が平和でないと始まらない話です。(2022年2月某日) ●HIRONOBUさんからのVOICE■



【Cocoli Locks を通過中】



【Miraflores を通過中】



【Agua Clara Locks を通過中】

□算数検定 11 級挑戦記録 ～年長最後の挑戦！繰り上がり、繰り下がり壁～

昨年3月、長男・万里が年中の時にゴールドスターに合格し、1年後は11級かと漠然と考えていました。しかし12月になってミツキ先生から11級の問題をいただき、見てみると、万里にはとても難しすぎて、夫とも話して受験しないことを決定しました。その時の万里は、小学1年生に憧れて「百ます計算」をやりたいけど仕方がないのですが、0、1、2の行だけを自分で進めて、一緒に手伝っても「うまくできないから」やりたくない」という状態でした。「 $2+3=7!$ 」なんて、大間違いがあっても、癪癪を起すので、それを直すこともできません。本人なりに、算数の苦手意識も感じていたと思います。小学校に入る前から勉強を嫌いにさせてしまったかもしれないと、私も罪悪感を憶えました。石川先生と相談して、一念発起し、12月初旬から算数のテコ入れを始めました。まずは片手に収まる足し算から。石川先生が、かつて、ご自身の息子さんに「足の指まで使って数えていいよ」と言った話を聞きながら、万里は嫌だった足し算の練習を始めました。手の使い方がだんだん上手になり、片手を超える足し算を経て、繰り上がりの足し算までようやく来ました。■さて、第1関門、繰り上がりの足し算、さくらんぼ算となりました。これは必ず引っかかるかと確信していました。9+5、9+7、9+8など、繰り上がりの足し算については、一問ずつ一緒にやらないとできないだろうと思っていました。しかし石川先生から数問やり方を教えてもらって、先生と一緒に解いたら、さくさと自分で解いていきました。理

<<千の声 VOICE>>

解するよりも機械的な解き方がわかりやすく、万里もすぐできました。「えっ？できるの？」と私がびっくりしました。石川先生マジックでした。やらせてみないとわからない、でも、やらせるのに嫌がったり時間が掛かったりして、つい手取り足取り手伝いすぎてしまって、本人自身でできることまで、できないと勘違いしていたんだと、実感しました。見守るのが大事と知りました。(普段の生活でもそうですね。その後、さくらんぼ算も苦戦しながらも、自分で順調に解いていて、繰り上がりの足し算は大得意になりました。さてこの段階で、算数検定 11 級の締切りになりました。「もしかして、できるかも？」と私も考えられるようになり、本人の同意もあり、申し込むことにしました。■そして第2関門、繰り下がりの引き算を勉強。「繰り下がりの引き算は苦手だから、やりたくないのー」とまた始まり、繰り下がりの引き算から逃げた分、繰り上がりの足し算の練習が増えて、数の合成分解、補数が身についてきたように思います。そして泣きながら、「やりたくない」という万里と一緒に、繰り下がりの引き算をさくらんぼで機械的に数問とくと、やっぱり自分でできることがわかって、「得意だよ」と本人も自信満々になりました。■繰り下がりの引き算もクリアした後に残ったのは、文章題です。いまの万里の読む力は「つ、ぎのけ、いさ、んを、し、ま、しょう」のような文字を一文字ずつ読み上げている状態です。「問題文を読んでいっても、問題の意味は読めておらず、問題は解けない、意味が読めるようになるまで、辛抱してつきあってあげてください。そして自分で考える時間を作ってあげてください」と先生から教えていただきました。過去問を毎回解いていると万里も何度も解くうちに、問題を覚えたり、予想していたり、なんとなくスムーズに読めているように見えました。しかし、大問6はやはり難しいです。これが最後まで得点できるかどうかの分かれ目になりました。今も毎回家で宿題をするときは、「わかんないよー！できないよー！もうやりたくないよー！」となりますが、なるべく万里の目に入らないところで、助けを求められないように見守っています。時によりますが、自分で集中モードに入れることもあります。まだ勉強が習慣になっている様子はなく、毎日「何時から石川塾やる？」と声掛けをしています。ただ本人も塾の宿題はやらなければいけない、という意識はあるようで、毎日とはいきませんが、一週間のうちの4日くらいはがんばっています。けれども最近は勉強前のルーティンの朗読暗唱も順調に進んでいるし、クワガタ図鑑でカタカナも勉強して読めるものが増えており、北京オリンピックでは国の名前を読めるようになりました。小学校1年生の漢字の勉強も始めています。繰り上がり繰り下がりの計算ができたことがとても自信になっているようで、他のことにも意欲が出ているようです。■土曜日に算数検定が迫る直前の火曜日、試験当日が今週末にせまっていることをすっかり忘れていました。解答用紙に書き込む練習、見直しの練習、先延ばしにしていたことを大慌てで、朝も勉強しようと、もうひと踏ん張り力をいれました。水曜、朝と夕方、2度しっかり勉強。木曜、うまくいっていたと感じていた引き算がいきなり苦手に。繰り下がり引き算か、そうでない引き算かの見分けがつかなくなり、過去問をやめて50問引き算を解く練習に変更。金曜、「もう引き算はやりたくない」という息子に、夫の思いつきで、数字のついたレゴデュプロで問題を出すことに。「これならたくさんやりたいー！」と、私がびっくり。形が変わって、紙に書く方式からブロックに変わったただけなのに、やる気ばっかり。■土曜、午前中にもう一回くらい勉強できるかなと思っていましたが、もうやめて、外で思い切り遊んで午後の算数検定に臨みました。算数検定の結果はまだわかりませんが、石川先生に相談してみたら、引き算は十分できているでしょう、と言ってもらえました。文章題を読む力が今度は課題となりましたが、今回の算数検定は、受験をあきらめていたところから始まり、石川先生のご指導でここまで来られました。算数検定に力を注ぎすぎて、試験直前は朗読暗唱がおろそかになってしまい、反省しています。今後は、万里が自分で毎日少しずつ勉強する力をつけていけるように、サポートしていきたいと思います。●バンリ君(年長)のお母さんからの VOICE■

□ハナちゃんの一年のあゆみ ～やればできる！自信がついた一年！～

もともと勉強が好きでなく、小学校に入学してからも毎日重い足取りで登校しております。学校そのものが嫌いな訳ではないようですが、行けば必ず勉強が待っていること、帰宅してからも宿題をしなければいけないことなどが、永久に遊んでいたい本人からしてみれば、その苦痛は小さくないようでありました。石川塾にお友達に通っていたことから、時々遠足等にお邪魔しておりましたが、去年の夏休み中に勉強の習慣が途絶え、ただでさえ苦手な勉強(特に算数)から遠ざかってしまうという親の危機感から、お友達の勧めもあって本格的に入塾することに致しました。石川塾では、それぞれの塾生に合わせて課題を調節くださり、一度にどさっと課題が積まれるとすぐ敵前逃亡してしまう我が子でも、無理のないペースでなんとか頑張っているようです。特に、算数のくり上がり・くり下がりの計算に関しては、サクランボ計算なるもの(私達ひっ算世代には、これがなんとも曲者です)で苦労していて、学校では好きなところでサクランボを作って良いと指導されているらしく、本人は手間のかかる方法をあえて好んで苦しみ混乱し、私達親も上手いアドバイスが出来ずに困っていました。そこで、塾のミツキ先生に相談したところ、一番無駄の無い方法を教えていただけたようで、これが本人にも分かりやすかったらしく、計算のコツを教わってからは苦手な引き算もすんなり解けるようになってきて、本人も自信をつけたようです。上手なアプローチ方法を教わって、苦手なものを克服した経験は、勉強嫌いの我が子でも、勉強が面白いと少し思えたようでした。日頃、繰返しコツコツやるのが苦手な、地道に漢字練習や計算練習を毎日することができなかったのですが、お友達が漢字検定や算数検定を受けていることに刺激されて、まず漢字検定から受けてみることにしました。いざ目標がきまると、それに向かって頑張る・・・という訳には行かず、準備のための勉強も乗り気ではありませんでした。が、検定日が近づくと、危機感を感じたのか次第にやる気を出し、毎日過去問に取り組む姿が見られるようになりました。検定自体もまずまずの手応えだったようで

す。ミツキ先生に、目標があると頑張れるタイプとアドバイスをいただき、算数検定も勧められたことから、こちらも受けてみることを本人が決めました。漢検での経験があったためか、算数検定の過去問にも進んで取り組んでおり、文句を言いつつも学校の宿題と併せて毎日頑張っています。漠然と勉強するのではなく、目標に向かって努力するという感覚が、少しずつ芽生えてきたように思います。相変わらず勉強が好きではないと本人は言っていますが、石川塾に通い始めたことで苦手意識は大分薄れてきたようです。また、日々の勉強を通して、できなかったことができるようになったり、もっと楽に速くできるようになっていく経験を積んでいくことで、やれば身につくということを本人が自覚しつつあります。親としても、長い目で成長を見守りたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

●ハナさん(小1)のお母さんからの VOICE■

□兄妹で同時入塾 ～自ら勉強に向かう兄・あきらめず頑張る力がついた妹～

湊登(みなと・小3)と桜千(さち・年長)の入塾に至るまでの経緯、現在の様子をお話しさせていただきたいと思います。家で決まった時間にお勉強…と言うものが定着していなかった我が子たち。しかし石川塾体験で、本棚に囲まれた教室が新鮮に感じたのか、新たな空気感に魅了され、2人とも自ら「通う！」と言ったため入塾を決めました。まず2人の性格についてですが、桜千は生真面目で、繊細な性格。席についてお勉強をすると言う面ではあまり心配はしていませんでした。問題は湊登。この子は、学校の授業中は基本的に足はブラブラ。頭あっちこち見て定位置なし。口も騒がしい。お勉強以前の問題。知能レベルを上げるのではなく、まずはちゃんと座ってお勉強ができますように。そんな思いを込めて入塾を決めました。

【兄の勉強に対する意識の変化】

入塾してから約半年。目に見える変化がありました！特に湊登。自ら、毎朝6時前に目覚ましをセットして、塾のプリントをしているのです。もちろん、理由はちゃんとあります。夕方、やることを全て終わらせて何にも追われずにゆっくり過ごすため。いいんです、それでも。自分で1日の流れを予想して、効率よく過ごせるために、まず朝イチにお勉強をすることを選んでいのですから。私が起床してまず目に入るのは、リビングで勉強する湊登の姿。毎朝その姿に感心しています。同時に私も頑張らなくちゃ！と、やる気をもらっています。はじめての漢字検定と算数検定も経験しました。検定がどういふものか分からないまま、本人はやる！と、半ば勢いで言ったものの、まだ勉強の習慣があまりなかった湊登はなかなか大変そうでした。しかし、一度決めたことはやり遂げる。彼のそんな性格に気付けたのも石川塾のおかげです。とにかく反復。終わったプリントは捨てずに、溜まったものを本人に見せて「これだけやったんだよ」と、実感できるように形として残す。親である私も、塾を通して学ぶことがたくさんあります。小学3年生。著しく成長を感じた年でした。塾に加え、空手も始めたせいか、自分を客観視できるようになり、だいぶ言動が落ち着きました。進路は正直まだ決まっていません。しかし、勉強のベースがほんの少しだけ整った今、ようやく進路への道がひらけたようです。あとは本人の好きな『もの』ことを見逃さないように、見つけた時には伸ばしてあげられるようにサポートしていきたいと思います。

【兄の影響による妹の変化】

そんな湊登の姿を見て、桜千も着実に勉強への姿勢が身についてきました。初めて受けた算数検定。今までに経験のない、静かな空間でのテスト。嫌がるかと思いきや、ちょっとだけ弱音を吐きつつも、しっかりと見直しを2回もしていたそうです。自分で間違いに気づき、直したと。私自身年長の頃、『見直し』なんて存在すら知らなかったかもしれない。湊登に手がかかりすぎたせいか桜千に関しては1、2回言っただけで物事を理解してくれる、ただそれだけで私にとっては感動でした。あのような兄を持つと、反面教師でこのような妹が育つのか…と、日々2人の姿を見ていると面白いです。そして驚いたのが、妹が勉強で分からないところがあると、兄が進んで教えてあげることが度々見られるようになりました。感情的になりやすい私よりも、湊登の方が教え方が上手かもしれない…と、ハッとします。湊登自身が、どうやって教わるとやる気が出るのか分かっているからこそ、桜千に優しく、わかりやすく教えることができるのでしょうか。桜千も湊登を信頼しているのか、ちゃんと聞く耳を持って、さっきまで分からなかったことが、湊登の説明によって理解できている。私はそんな姿を見ると、口は出さずに『いいぞいいぞ』と側で様子を見ています。そして、湊登には上手に教えられたことを褒めるとものすごく顔が紅くなります。桜千には湊登への感謝の気持ちを忘れないことを伝え、諦めずに頑張ったことを褒めるようにしています。これこそ相乗効果！桜千は、時にはやる気のない日もありますが、やる気がありそうな時こそ隙を見て教えるとぐんぐん吸収してくれるのが私も楽しいです。間もなく1年生になる桜千。些細なことで不安になり、今も学校に対してネガティブになっていますが何か自信を持てるものがあれば学校生活も楽しくなるはず。きっとそれが、桜千にとっては石川塾で培った知識であることは大いにあると思います。もちろん、時には挫折も大事ですが。そう言った点では、まずは安心したスタートをきれそうです。入塾してから1年も満たないですが2人は目に見えるように成長しました。我が子2人が自主的に勉強できるように導いてくださり石川先生、光樹先生にはとても感謝しています。親は、いかに2人のモチベーションを保つかが課題です。今後も親子共に成長が楽しみです。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

●サチさん(年長)ミナト君(小3)のお母さんからの VOICE■

<<千の声 VOICE>>

□県立中高一貫校受験を決めたわけ ～可能性を増やしてあげるのは親の仕事～

当時2年生になった娘が石川塾に通う事になったきっかけは、お友達の紹介でした。学校の宿題くらいしかやらせていなかった娘に「勉強のやり方と習慣」が身につけばと思い、読み書きに力を入れる石川塾の方針に惹かれ通う事を決めました。娘自身はというと、最初は勉強にそれほど興味はなく、お友達と同じ場所で同じ時間を過ごすことを楽しんでいるようで、そのときは親子ともに『中学受験』は特に意識していませんでした。数ヶ月通い塾に行くことになってきた頃、漢検や数検に取り組むようになり娘の勉強への姿勢が変わったなど感じるようになりました。検定という勉強の目標ができ、その目標をクリアする事で自分に自信が付き、勉強へ向かう姿勢がとても向上しているように見えました。字も見違えるくらい上手になりました。1年生の最初の授業参観では、クラスで1番と言っているほど娘の字が汚い事に初めて気が付き衝撃を受けたほどです。その頃からだったと思います。自宅から相模原中高一貫校が近いこともあり、受験をした先輩たちの話を耳にすることが度々あり、家庭の中でも『中学受験』というワードが出るようになりました。娘は受験の意味をよく理解していませんでした。しかし、検定や日々の取り組みで自身がついてきていた娘は『頭のいい学校へ行く!』と、意気込んでいました。それが、我が家の受験に向けての始まりでした。私と妻は、中学受験の経験はありません。だからか娘にも特に考えてはいませんでした。しかし、今ある環境をきっかけに興味を持ってくれたことはとても意味のあることだと思いました。それからは、受験する事が子供にとって本当に良い事なのか、親のエゴにならないのかと妻とよく話をしました。娘は受験を理解していく中、不安が出てくるときもありましたがその度に『なぜ受験をするのか』を親子で話し合うようにしています。そこで目標の共有と再認識をしています。そして、無理にはさせない。ただ子供の可能性を増やしてあげるのは親の仕事だと話をしました。これからは、親子共に勉強の事で悩む事がでてくるかもしれませんが、一緒に解決し目標に向かって一緒に成長して行けたらと思っています。

●アイリさん(小3)のお父さんからの VOICE■

□踏まれて伸びよ。150 cm、小学四年生 ～制限の中、チャンスはつかむ令和三年～

今年でパンデミック三年目、現在は第六波の真最中。なれたもので朝支度をする息子は前後ろの着衣は間違えてもマスクをつけるのは忘れない。体育の時間、二学期までマスクなしでの運動が OK だった。ところが三学期からはマスク着の運動にルールが変更。さらに息のしづらい生活が続いている。ふり返ると2021年の初め、夫の提案で月一回の「里山暮らし体験」に家族参加を決めた。4月の筍堀りをはじめ田植えや刈り取り、餅つきなど体と手を使い自然の中で四季折々の行事を一年通じて味わう会だ。虫が嫌いな息子は初めあまり乗り気でなかったが、冬の落ち葉かきの頃には体よりずっと大きい竹籠を背負って山道を運ぶ遅さをみせた。石川塾では4月弘法山、6月は鎌倉七福神巡りの遠足に参加、仲間の皆さんとともに自然の中で遊び、晴れやかな時間を過ごす。9月になると四度目の緊急事態宣言の中、運動会にむけ学年恒例「ソーラン節演舞」の早朝練習が始まった。先生の激励に時に涙する時もあったようだが、リーダーの一人として稽古に励んでいた。気迫漲る本番での演舞には家とは別人の息子の姿があった。四年生になり、塾の学習に私は前ほど口を挟まなくなった。案の定、息子は今までやっていた自習をやらなくなり、漢検は一回受けたのみであった。一方、彼には新しい学びの世界が広がり始めた。遠足の時、渡邊先生にサイエンスのお誘いを受けると二つ返事で「やりたい」と言い7月から新たな学びを始めている。テキストを初めて見た時、私はあまりの厚さに驚いた。生物の不思議をバームクーヘンにして一層一層味わうような本だ。この本で学ぶ息子を羨ましく思う。またある時、同級生のお母さんに中国語をやらないかと誘われ、その場で「やります」と即答し通い始めた。クラスメートの親御さんがプログラミング教室をやっていると知ると、またこれも「やる」と言い出す。読書好きは変わらず、角川つばさ文庫にはまりほっておくとずっと本を読んでいる。小学生もあと二年残すのみ。やりたい気持ちやバネに、心に柔軟性と筋力がつくといいなと思っている。

◎一年間、コウタロウが塾でがんばった事◎

1. 音読暗誦 4詩歌(累計64) 2. 百マス 割り算B合格 3. 三、四年生の漢字の書取り70文 4. 漢検7級満点合格 5. イッキによめる! 名作選中学生、ゼッタイこれだけ! 名作教室1年生上下終了 6. 生物・生命科学大図鑑「細胞と遺伝」1～3章まとめ

●コウタロウ君(小4)のお母さんからの VOICE■

□2023年 志望校合格を目指して ～生物部のある私立中学男子校受験の記③～

【次は僕の番だ!】

石川塾で受験勉強を本格的に始めてから8か月が経ちました。塾と一緒に学んでいた先輩たちが過去問に取り組み、受験前日まで粛々と準備している姿や次々に試験を受けていく姿を見て、来年は僕の番だ!という意識が一層強くなっています。中学受験の世界では2月で6年生。ファイナルの年となります。塾を切り替えてから長いようであつという間に過ぎていったこの8か月間に新平が塾と家庭で学んだことと今学んでいることを記録します。算数は過去問に取り組んでいます。最初は大設問1が全滅状態でした。青ざめた顔暗い表情で帰宅した日のことをよく覚えています。この日はかなりショックだったようで「マジでやばい。受からないかもしれない」とこぼしていました。そんな息子に対して「不言実行!!受かる受からないと心配する前にやるべきことがあるでしょう。出来なかった問題を解き直すこと。」と伝え、一緒に机に向かいました。過去問に取り組むのが少し早いような気もしていましたが、実際に自分で解い

てみることは私たちが色々とはっぱをかけるよりも効果はあったようです。今では少しずつですが正答率が上がっています。手ごたえがあるとずっと積極的に学習しようとする姿勢が増えますね。受験勉強は親子も我慢比べ。子は友達との放課後の付き合いを我慢し、親は夜と休日のリラックス時間を息子の学習に付き合う・・・忍耐と日々の積み重ねの連続だとつくづく感じます。

【正確さとスピード】

大手塾、模試センターの合否判定模試が4月からスタートします。我が家では日能研、四谷大塚、首都圏模試センターを利用しようと考えています。試験は当然時間が決まっているのでどれだけ解答出来たかが合否の分かれ目になります。正確にかつスピードをもって解いていかななくてはいいけません。息子はまだまだ訓練が必要です。時間を意識しての学習が弱いです。模試は私学へ行き、受けるので本番の雰囲気は味わえます。石川塾では同学年の受験生が少ないですが、試験会場では沢山の受験生と一緒にテストを受けるのでそれもよい刺激になるのではと考えています。引き続き頑張れ！息子！

＜国語＞●イッキによめる！名作選 1年～6年・中学生…終了●ゼツタイこれだけ！名作教室 1年～6年…終了●理想の国語教科書 1巻全 31編…終了●理想の国語教科書 2巻 24編…終了●スラムダンクな友情論全 6章…終了●チャート式シリーズ 基礎からの中学国語…終了●中学入試国語のルール…終了●文章検定 4級問題集・過去問…終了●漢字検定5級過去問…終了●計算と熟語5年…終了●調べてみよう、書いてみよう…終了●理想の国語教科書3巻31編…終了●漢字は楽しい●使える！徒然草●作文力で合格！●日本の歴史1巻古代篇(算数)●100マス計算上級3種目…終了●計算と熟語6年…終了●割合・比習熟プリント…終了●単位換算(2巡)…終了●図形・作図習熟プリント…終了●円(2巡)…終了●円の転がり…終了●天才ドリルマルチ算…終了●天才ドリル速さ…終了●天才ドリル点描…終了●面積迷路スピード編…終了●回転体…終了●立方体の切断…終了●算数授業の実況中継(上)…終了●中学数学発展篇「図形」●算数授業の実況中継(下)●力の5000題●秘伝の算数(発展篇)●秘伝の算数(応用編)●志望校過去問
＜理科＞●サビエンス全史「人類の誕生」…終了●徹底反復プリント理科(2巡)…終了●ウイニングステップ4年、5年…終了●ウイニングステップ6年●メモリーチェック●考察力で合格！～受験勉強優先の為お休み中の講座～●生物生命科学大図鑑●サビエンス全史「文明の正体」●社会●徹底反復プリント社会(2巡)…終了●ウイニングステップ4年、5年…終了●ウイニングステップ6年…終了●メモリーチェック●分析力で合格！●シンペイ君(小5)のお母さんからの VOICE ■

□個々のペースで学習できる良さ ～チャレンジして塾通信に名前を載せたい！～

弟と一緒に通塾を始めて1年半が経ちました。物事の習得にとっても時間がかかる息子は自分のペースで学習できる石川塾がとても大好きです。入塾したころは漢字を中心に学習をし、漢字検定を受けて6級まで合格しました。今は5級合格に向けて学習しています。漢字が沢山読めるようになり、世界が広がりました。最近では地理への興味が深まっています。地名や特産物、山脈、川などどんどん覚えていきます。そこから、その地域に住む人や気候などにも興味を持っています。そして時間ができると本を沢山読むようになりました。また、塾通いに慣れてきた頃からお手紙などに影響を受けて100マス計算と朗読暗唱に取り組みたいと言いました。塾では100マス計算にチャレンジ中の塾生はタイムをホワイトボードに書き込んでいきます。また、毎週のお手紙を通して誰がどういう課題を達成できたのかを知ることができます。「僕もお手紙に名前が載るといいな♪」と楽しみにしています。ペースは遅くとも息子は確実に成長しています。そして先生たちの温かい見守りとサポートがある環境の中でのびのびと学習出来ることに感謝しています。●ジュンペイ君(小6)のお母さんからの VOICE ■

□中学受験を終え英検 2 級取得を目指して ～2年間の海外生活を経て、帰国後の取り組み～ 【入塾のきっかけ】

1月からお世話になっております、コウダイ(小6)の母です。私たち家族は2年間の海外生活を終え、昨年3月に相模大野に帰ってきました。その間、子供たちはニューヨークの現地校に通い、日本人が週末に通う補習校には行かず、公文と教科別のワークで日本の学習をフォローしていました。アメリカ、特にニューヨークには多くの人種が存在し、子供たちのクラスメイトも多種多様な文化的背景を持っていました。息子は社交的なタイプなのですぐに友達を作り、英語の上達は家族の中でもダントツでした。そして、とうとう「日本に帰りたくない」とまで言うようになりました。息子はアメリカのスタイルの方が自分に合っていると感じていました。ですが、そんな楽しい日々は Covid-19 の世界的なパンデミックにより一変してしまいました。ロックダウン、人種差別問題(Black lives matter)などなど、NY は本当に苦しい時間を強いられました。しかし何とか無事帰国し、息子の「英語が好き！」「アメリカでまた勉強したい！」を叶えるべく、6年生から中学受験勉強を開始する事となりました。大手学習塾の集団と個別に通い、なんとか志望校の合格を頂くことができたものの、受験を終えふと不安になるのはやはり進学後の学習について…。小学4年から5年までを海外で過ごした息子は、感想文や作文を書いたことがほとんどありません。論理的に文章を組み立てることなど、今の息子にはとても無理…。帰国後、英検準2級を取得しましたが2級取得にあたりネックになるのはやはりライティング。息子は英文法をほとんど知りません。なので、解説を読んでも？？？となってしまう理解ができません。この問題をどうにかしなければ、入学後大変な事になるのは目に見えている…。石川先生とお会いしたのは約4年前、石川塾の遠足に参加させて頂いた時でした。石川塾ならば、この問題を解決に導いてくれるのではないかと思い入塾を決意しました。始めのころは、今まで通っていた塾との違いに戸惑いもあったようですが、一人で電車になど乗った事のない息子が隣駅まで一人で通っています。●コウダイ君(小6)のお母さんからの VOICE ■

<<千の声 VOICE>>

●石川塾の遠足●3月6日(日曜)田浦梅林コース(山)行ってきました♡

■～9:30JR 田浦駅集合～田浦梅林・フィールドアスレチック～乳頭山～森戸川源流～
16時頃 JR 逗子駅解散～♡逗子駅で美味しいソフトクリームとマーロウのプリン♡

●幼稚園児も参加するから大丈夫だと言われ参加したのですが・・・ドッコイこれが意外にアドベンチャーワールドの世界の入り口でした。田浦梅林頂上には芝生の広場と子供たちが遊べるアスレチックの遊具や展望台もあってここからの景色は海のブルーと白いビルがとても素敵で絶景でした。ここで休憩とおやつを食べてトイレを済ませ、アドベンチャーワールドに入ります。乳頭山へは、急傾斜の岩場をロープを伝って登ります。幼稚園児も小学1年生の女の子たちも良く登りみんな凄いので驚きました。登り切って尾根の頂上で休憩して、ここからが本番です。尾根道を少し歩き秘密のけもの道となり、木の枝、木の根、草の枝に掴まり崖を森戸川の源流に降ります。私は大好きですが周りを見ると子供達も嬉しそうです。子供たちって危険な事が楽しいみたいですね！ここで私は小学1年生の詩媛ちゃんの補佐をすることに成りました。最初はほとんど話をしてくれませんでした。危険を共に歩いていると、信頼関係がめばえてきて少しずつ話をするようになりました。今年は雨が少なかったため水も無い中、森戸川の源流に降りたち歩き始めました。下るにつれて水が増えてきて子供たちは滑って水の中へ落ちたり、靴と靴下を濡らし始めてこれがとても楽しいのかわざと水に落ちたりしています！源流を歩くときは詩媛ちゃんに自分で考えてもらい、どちらの道を歩けば安全か考えながら一緒に歩きましたがこれがとても楽しいワンシーンでした。子供の成長のジャンプの瞬間に立ち会えることは生きがいですね。昼食後に水ライトを子供たちに作ってもらい山の中の理科実験教室開催です♪後半は詩媛ちゃんと真帆ちゃんとマジカルバナナのクイズをする仲にまですりました。超ハードなハイキングでしたが逗子駅で美味しいソフトクリームを食べて一休みして、朝早くオニギリを作ってくれたカミさんにお土産のプリンを買いました。



●リイチロウ先生からの VOICE ■

●今年の遠足は全部参加するぞー！そう意気込んで今年一発目の遠足に参加してきました！集合場所の田浦駅から山を4時間ほど散策して逗子駅へ向かう田浦梅林コース！出発から徒歩40分ほどの田浦緑地で子どもたちは梅の花の写真を撮ったり、野生(?)のリスとの思わぬ出会いに大はしゃぎ。小休憩で立ち寄ったみたいですが、体力温存とカロリー補給に励む大人たちをよそに、すぐそこにあるアスレチックで思い切り遊ぶ子どもたち。パワフルさ！本当に羨ましい！！そして「この先4時間トイレ無し」という言葉に私はビビりながらもいざ山へ。何回か参加して編み出した遠足攻略のコツ「先頭を歩く石川先生のすぐ後ろを着いて行く」を実践。狭い山道を通り、ロープを伝って岩を登り、自然を堪能しながら進む子どもたちは、途中川に落ちて足を濡らしても、顔をキラキラさせながら森を楽しんでいて、そんな姿に今回もまたとてもいい体験をさせてもらえたなあ、と感じました。私自身も何も考えずただ黙々と森の中を進んで行くのがすごく心地よかったです。普段全く体を動かさないのに、遠足後筋肉痛もなく快調に過ごしています。森のマイナスイオンでリフレッシュできたみたいですよ！帰りは逗子駅近くで遠足の予告にあったソフトクリームを食べ、お土産にプリンを買って、冒険+ご褒美と盛りだくさんな1日で大満足でした！初めての遠足はたくさん歩く事にびっくりして腰が引けていた子どもたちですが、今年は遠足制覇に燃えはじめています。●アツヒト君(小1)アイリさん(小3)のお母さんからの VOICE ■



●今回は長男と父親2人での参加。これまでも何度か石川塾の遠足には参加していましたが、今回は一番「きつい」、しかしながら「冒険要素の高い」遠足でした。9時半にJR 田浦駅に集合、まずこの駅がおもしろかったです。ホームの両端がトンネルになっているだけでなく、もう使われなくなったであろう引き込み線があったり、乗降客の少なさから、なんとなく秘境駅風(田浦は、決して秘境ではありませんが…)の雰囲気味わうことができました。田浦駅から、田浦梅林を目指します。住宅街を抜けて歩くと、階段と坂を上った先には梅林が広がっています。当然、子供たち(特に、長男)は梅の花には反応せず、梅林の広場にあるフィールドアスレチックへ一目散に駆け出しました。頂上と展望台での記念撮影を終えて、いよいよ乳頭山登頂

<<千の声 VOICE>>

と森戸川の沢下りに向かいます。先ほどまでフィールドアスレチックで遊んでいたにもかかわらず、長男は石川先生の背中にぴったりと付いて歩きます。途中、ロープをつたって上る急こう配もありましたが、体重の軽い子供達は何のその、大人の不安をよそにどんどん上へ上へと昇っていきました。「がんばれー」という子供達の明るい声に励まされながら、大人たちは息遣いも荒く、急こう配を登っていきます。何度かの急こう配を登り終え、乳頭山山頂に到着、山頂からは横須賀の景色、そして東京湾の向こう側には千葉が見えます。大学の幕末開港史ゼミを受講していた時に、観音崎方面のフィールドワークをし、日本へ開港を迫る際に、横須賀や東京湾一帯にペリーが便宜的に名付けたアメリカ風の地名が数多くあったことを思い出しました。(個人的には、横須賀市・走水地区にペリーが名付けた「ルビコン岬」という名前を今でも覚えています)山頂で休憩を取り、「あとは、下るだけか」と思っていたら、全然そんなことはありません。山頂から少し下ったところにある「けもの道」と思うような道を草をかき分けながら入っていくと、いままでにも増して、冒険要素たっぷりの道が続きます。木の枝やロープをつかまなくては崖の下まで落ちてしまいそうな、そんな道をどんどん進み、群生したシダ植物が急に増え、水辺に近づいたことに気づきます。ようやく森戸川に到着です。ここからはこれまでの山道とうって変わって、沢歩き。水量は多くないものの、滑って転んだり、水たまりに足を水没させないよう気を付けながら足を進めます。なんだかんだで、両足とも靴下がぬれるほどになってしまいましたが、構わず進みます。子供達は、どんどん進んでいきます。石川先生とそれに続く元気な子供達の姿は見えなくなりましたが、沢をゆっくりと下りながら、木漏れ日の心地良さや沢にかかる倒木に反射する水面の美しい模様を堪能しました。(前日まで忙しい日が続いていたせいか、癒し効果が絶大だったのではないかと思います！)途中、お昼休憩では、今回の遠足にご一緒した小花さんのサイエンス教室が開かれ、「水ライト」を作成し、子供達は前半の行程の疲れもなんのその、頭も体もフル稼働させています。後半は、川沿いの林道を歩きながら、逗子に向かってひたすら進みます。普段、在宅勤務が中心で運動不足気味な私は、とにかく前に進むことに必死で、特に後半は、「なんとか早く逗子につかないか」ということばかりを考えながら歩いていた気がします。終わりが見えてくるにしたがって、体力自慢(?)の長男にも、さすがに疲れの色が見え始め、少しずつ不機嫌になってくるのが手に取るようにわかります。長男にとっても、今回は楽しさは十分にあったのですが、山道の連続で疲れたのでしょうか。最後は、逗子遠足のゴール地点としてお決まりの、moomoo's でアイスクリームを食べ、帰途につきました。藤沢から乗った小田急では、当然親子ともども、爆睡し、気づいたら自宅のある相模大野駅でした。石川先生、みつき先生、今回も楽しい遠足の企画ありがとうございました。さんざん、疲れた・大変だと書きましたが、個人的には、冒険要素の高い「おかわり」したくなるコースでした！ ●バンリ君(年長)のお父さんからの VOICE ■



◎4月・5月・6月～石川塾の遠足のご案内～◎

- 4月3日(日)鎌倉逗子ハイランドさくら道：9：30 江ノ電長谷駅集合～裏大仏ハイキングコース～源氏山公園(おやつ休憩)～化粧坂～小町通り～若宮大路～鶴岡八幡宮～衣張山ハイキングコース～鎌倉逗子ハイランドさくら道(お昼)～報国寺～鎌倉霊園(休憩)～16 時頃 JR 北鎌倉駅解散～
- 5月21日(土)・28日(土)森戸川源流を遡る：蛍狩り(夜)：9 時 30 分逗子駅集合～仙元山(大判焼きのおやつ)～分岐点～森戸川遡上～乳頭山～田浦梅林～田浦駅～東逗子駅(サーティーワンアイスクリーム)～あずま湯(リニューアルした綺麗な銭湯)～夕方割烹まつなが(鶏の唐揚げ・鯛のかぶと煮は必食)～ホテルを見に：※途中帰宅・途中参加可能
- 6月12日(日)鎌倉あじさい寺(長谷寺・明月院)巡り：9 時 30 分江ノ電長谷駅集合～長谷寺～裏大仏コース～明月院～鎌倉霊園～夕方お食事(お好み焼き)

どなたでも参加できます！参加費は実費のみ！参加希望の方は石川塾までご連絡ください！

◎4月～12月 石川塾ワークショップのご案内◎

：4月29日・5月3日(午前) 科学実験ワークショップ「水ライト」づくり！

簡単！失敗なし！安全！アニメを見ながらつくっちゃおう！

●6月：人体の絵本(胸部) ●7月：人体の絵本(腹部) ●8月：臓器 T シャツ(うんち Ver)

●9月：臓器 T シャツ(おしっこ Ver) ●10月：頭の地図帳 ●11月：目の誕生 ●12月：耳よきな話

どなたでも参加できます！詳細は後日！参加希望の方は石川塾ミツキ先生までお知らせください！

<<コウボリ！レポート ～妊娠・出産・育児～>>

□七人の子育て奮闘記⑤ ～親も子を見て学ぶ～

主人と出合ってから約3ヶ月後に結婚。スピード婚後に7人の子宝に恵まれ現在に至る。私自身も想像のつかないゾーンに突入。毎日、何やらと問題が起きる。平和な時間は、きっと睡眠時間かな～と思いきや、夜中に誰かしらが泣き叫び起こされる。(誰かが赤ちゃんの時は私が。今は主人が起こされる)■仕事である患者さんと話している時、「私からしたら、普通のご家庭で1人のお子さんがいたとして、それなりに大変なのに、石王さんはその7倍だからね～。7人の対応しなければいけない。そりゃ～おかしくなるよ～。」との言葉を頂いた。実際、家にいる人数で、その中で生活をしているとそれが当たり前になってしまう。感覚が麻痺してくるというか…。例えば、料理作りでも人数分以上に作ってしまう。炊飯ジャーも、10合用でも小さく見えてしまう時もある。唐揚げ作るときも2キロの鶏肉でも足りないかしら～と悩んでしまう。洗濯機2回回したあとの干す時も、今日は少ない方だ～と嬉しい自分がいたり。お菓子買うときも、7人分買わなきゃケンカ、取り合いになるからと個包装が多く入ってるものを選びがち。学校から持って帰ってきたプリント類なども見落としがちで提出期限に遅れたりすることも。習い事の時間等の把握もキャパオーバーで、自分で時間の管理ができる子は、もうその子に託し、毎日、「今日は、誰が何ある？」と確認したり。下の子の習い事の送り迎えも若干ストレス気味。なぜなら、まっすぐ歩いてくれない。必ずたどり着くまでに寄り道。立ち止まり。人の家の垣根に登ったり。家にいたら、誰かしら「まーまー！○○がなにかしてきてきたー」とか「○○が○○してくれない」とか「トイレ～。一緒に来てー」とか「漏らしたー」と本当に落ち着かない。唯一ひとり時間は仕事の無い週2の午前中。それでもボーとしてテレビを見ているわけではなく、夕飯の材料買いに行ったり、子供達の必要品を買いに行ったり、家の片付けしたりと身体、頭も休めない。これが普通だろうな～。うん。やるべきことよね～。うん。普通普通～と自分に暗示している。■その中でも大変なのは、今でも進行中だが、娘の反抗期。そして、学習面。何かいうと、必ず言い返してくる。素直に聞いてくれない。自分の考えを持っていることはいい事だが、まだ親の確認が必要なこともあるのに、確認せずに友達に言われるままに動いてしまう。どうせ相談してもだめだと勝手に思い込んでしまう。私がそういうふうに思わせているのではないかと思悩む。学習面では、同じ問題でもその子によって理解力が違う。集中力の違い。同じ声掛けでも、その子によって受け止め方の違い。1人1人の、精神面の違いで打たれ弱かったり強かったり。■子供達は塾やらで外ではいろいろと頑張っているから、家にいる時は居心地がいいようになるべくうるさく言わないようにしようと思ってきたが、やっぱり時には言ってしまう自分。難しいな～。■子もそれなりの、ストレスで親もストレスをかかえ日々送っている。子も成長、親も子を見て学ぶ。子は親を育ててくれているのだ。と思いながら、明日は何が起きるかな～にながら学べるかな～と楽しみをもちながら過ごそうと思う。

●7人(年少・年中・小1・小4・小5・中1・中2)のお母さんからの VOICE■4月から子どもたちは一つ進級します(うち二人が受験生です)/子育て奮闘記を「ブログ」に連載中ですので御覧ください

□漫画『コウボリ(3巻9話)海外出産』 鈴ノ木 ユウ/講談社

妊娠八ヶ月のアリサはライブのために海外から来日していた。産科医鴻鳥の知り合いで同じステージで共演した。妊婦が飛行機に乗ることに問題はないが、エコノミー症候群の予防に水分を取るなどの注意は必要だ。しかし医師は海外旅行に行くことをおススメしなかった。なぜなら、安定期とはいえ胎盤が完成してつわりも落ち着いてくる時期なだけで、流産や早産などのトラブルが起こる可能性があるからだ。旅先でトラブルが起きたとしても産科医は診察することができないし、二十四時間体制で診てくれる病院があるという保証もない。ましてや海外となると言語の問題や保険の問題も出てくる。二十二週以降の妊婦に関する医療費をカバーしてくれる保険はないのだ。なので数千万円の医療費の請求が来ることもある。■そこにニューヨークから来日中のアリサが救急搬送されて来た。ホテルで破水したそう。すぐに分娩室に運ばれ赤ちゃんが産まれた。アリサは四、五日で退院できるが、赤ちゃんは二十九週で産まれてしまったため二ヶ月の入院が必要となった。しかしアリサと赤ちゃんの入院費用は全額自己負担なので多額の請求が来てしまった。■十日後アリサは夫婦でニューヨークに一時帰国することになり、赤ちゃんとの再会を心待ちにしていた。●カノン先生(高2)の要旨要約■

□漫画『コウボリ(10巻30話)無痛分娩』 鈴ノ木 ユウ/講談社

無痛分娩に対して「お腹を痛めて産まないと母親の自覚が出ない」と無痛分娩を反対する人がいる。無痛分娩には、鎮痛剤の点滴や注射を使う方法や、背中から麻酔を入れる方法などがある。その中でも多く行われているのは、硬膜外麻酔での分娩だ。硬膜外麻酔とは、背中から脊髄神経の近くに向かってチューブを入れて、そこから鎮痛作用のある薬を入れて陣痛を和らげる分娩のことだ。欧米で半分以上が無痛分娩の国もある。■肺動脈弁狭窄の妊婦は現在妊娠三十八週だ。妊娠後期は循環血液量も一・五倍になるため、心臓に負担がかかってしまう。そのため入院し無痛分娩で出産を行うことになった。肺動脈弁狭窄症は心臓から肺へ行く動脈の弁が狭くなっている疾患だ。麻酔を入れると痛みは和らぐが、足が痺れた感じになり力も入りにくくなる。そのためいきみにくくなり、心臓に負担がかかるので彼女の場合、吸引分娩になる。■彼女が外出していると、出産を経験した友人に再会した。その友人は「陣痛は痛いし産まれてからも大変だけど、自分のお腹を痛めて産んだ子供だからかわいい。無痛分娩をして楽して産んで母親になろうという考えは甘い。自然に産んだ母親の愛情には絶対に適わない。」と言う。

彼女の出産当日。陣痛促進剤と麻酔を使い出産が行われる予定だ。しかし彼女は麻酔なしでの出産を望んだ。友人に言われた言葉に悔しさを感じていたのだ。医師は、心疾患合併を患っている彼女の出産には麻酔が必要だと判断し、無痛分娩での出産を決行した。■妊娠・出産は一人一人違うし、考え方もそれぞれ違う。自然分娩でも、無痛分娩でも、帝王切開でも、出産に優劣も勝ち負けもないのだ。●カノン先生(高2)の要旨要約■

<<石川塾の肝心要 ～生きていくための要旨要約～>>

□『調べてみよう、書いてみよう』 最相葉月/講談社

■第6章 書くことの意味って

～書くことは読むこと～

この本ではテーマの選び方や人に話を聞く方法などを説明していました。なんだかむずかしいなあ、そんな感想をもって大丈夫です。著者もこの本で書いたことを完璧に実行しているわけではないのです。これは半分仕方のないことだったのです。ノンフィクションの書き方を教えてくれる人などどこにもいなかったのです。著者に書く方法を教えてくれたのは、これまで読んできた多くの本たちでした。

～なぜ書くのか～

文章を書くには、紙とペンがあればいい。そして自分の好きなこと、知りたいこと、伝えたいこと、やってみたいことさえあれば、あなたの旅は始まります。本で調べて、人に会って、文章を書く。読んだことのない本を読み、知らないことを知り、考えたことのないことを考え、体験したことのないことを体験する。それはあなたの世界が今よりも大きく、より深く、より豊かになることです。世の中にはさまざまな人がいて、さまざまな人生があります。世界にはそのことを教えてくれる文章があふれています。書く人と読む人が私たちの世界をかたちづいています。あなたがこの世界を生き抜く力を手にするということです。

●リホさん(小4)の要旨要約■

□記述力を身につける 20+200 字要旨要約文(齋藤孝『理想の国語教科書』青版/赤版/緑版より)

■シェイクスピア「マクベス」第一幕第七場(齋藤孝『理想の国語教科書』第1巻青版より)

一文要約:**マクベスが夫人にそそのかされて王ダンカンを殺す話**

本文抜粋: やってしまっ、それで事が済むものなら、早くやってしまったほうがよい。だが、こういうことは、かならず現世で裁きが来る。考えていらっしゃる御自分と、思いきった行動をなさる御自分と、その二つが一緒になるのを恐れておいでなのですね？もしやりそこなったら？勇気をしぼりだすのです。大逆の罪も、そのやくざ頭のお付きになすりつけてやったらよい。体内の力をふりしぼって、この恐ろしい仕事に立ち向かうぞ。

●セイナさん(小5)の要旨要約■

■シェイクスピア「マクベス」第一幕第七場(齋藤孝『理想の国語教科書』第1巻青版より)

一文要約:**マクベスが夫人にそそのかれ王ダンカンを殺そうと決心する話**

本文抜粋: 因果は逆にめぐって、元兇を倒す。王がここにいるのは信頼からだ。それに、今夜は逆意をいだいて近よる者を防ぐ役目。もう、やめにしよう。では、身につけていらした望みは、ぞっとして気が沈むと？お願いだ、黙っていてくれ、度がすぎれば、人間ではない。その気になれば、笑みをかけてくる子の脳を抉りましょう。あなたのように、誓ったからには。よし、この恐ろしい仕事に立ち向かうぞ。あたりを欺くのだ。

●ヒロカズ君(中2)の要旨要約■

■志賀直哉「清兵衛と瓢箪」(齋藤孝『理想の国語教科書』第1巻青版より)

一文要約:**子供の純粋な心と世俗的な事柄を対比させた話**

本文抜粋: 清兵衛が時々瓢箪を買って来る事は両親も知って居た。学校へも持って行くようになった。さて、教員は清兵衛から取り上げた瓢箪を穢れた物でもあるかのように、捨てるように年寄った学校の小使いにやってやった。結局五十円で漸く骨董屋はそれを手に入れた。…清兵衛は今、絵を描く事に熱中している。これが出来た時に彼にはもう教員を怨む心も、十あまりの愛瓢を玄能で破って了った父を怨む心もなくなって居た。

●ユウキ君(中1)の要旨要約■

■谷崎潤一郎「陰翳礼讃」(齋藤孝『理想の国語教科書』第3巻緑版より)

一文要約:**谷崎潤一郎がほの暗さの中で映える日本の美を書いた話**

本文抜粋: 京都に「わらんじや」と云う有名な料理屋があつて、久しぶりで行ってみると、いつの間にか行燈式の電燈を使うようになっている。燭台に替えて貰ったが、その時私が感じたのは、日本の漆器の美しさは、そう云うぼんやりした薄明りの中に置いてこそ、始めてほんとうに発揮されると云うことであつた。そうしてそれは、闇にまたゝく蠟燭の灯と漆の器とが合奏する無言の音楽の作用なのである。そう云えばあの色などはやはり瞑想的ではないか。 ●シンペイ君(小5)の要旨要約■

■湯川秀樹「旅人」ある物理学者の回想(齋藤孝『理想の国語教科書』第3巻緑版より)

一文要約:**昼間は勉強していてなかなかアイデアが浮かんでこないが、寝床につくと様々なアイデアが浮かんでくる話**

本文抜粋: 私はこんな風に考え始めた。もう一息という所まで、きたのである。しかし、昼間勉強している間には、なかなか面白い考えは浮かんでこない。計算用紙に、書き散らした数式の森の中に、私のアイデアはかすんでしまうようであつた。ところが夜、寝床に入って横になると、様々なアイデアが浮かんでくる。それは数式の羅列に妨げられずに、自由に成長してゆく。その中に疲れて寝てしまう。

●ミオさん(中3)の要旨要約■

※大山実桜さん(中3)と橋本新平くん(小5)は「理想の国語教科書」3巻目の決定版を修了しました/3冊で86篇の要旨要約を提出2000ポイントになります/1冊修了につき1000ポイント3冊で3000ポイントが加算され5000ポイントになります/二人には5000円分の図書カードを進呈します◆

アンとアナのものがたい(成長日記)

☆アン(4年生): 漢字検定5級合格 ♡『ゼツタイこれだけ』終了 ♡理想の国語教科書スタート ♡

【右足骨折でイラスト描きと読書の時間を満喫中 ♡さくらももこ中毒 ♡】

漢字検定6級合格後すぐに5級の勉強を開始し5級も見事合格 ♡となれば…もう4級に向けて取り組みを開始するしかない ♡ここでテキストの問題が発生…5級までは漢字の書き順と熟語の練習ができる『徹底反復 ○年生の漢字』(陰山 英男/小学館)で新しい漢字の練習をしてから過去問に取り掛かっていたが、4級からは中学生の漢字となるため書き順から練習できるテキストがないのだ…書店やインターネットでいくつも問題集を見ているが、小学生が取り組みやすいようなものがない。せめて新しい漢字が書き順とともに分かりやすく順番に出てくるテキストを使って…と思い選んだものが『漢検 4級 漢字学習ステップ 改訂四版』(日本漢字能力検定協会)である。新しい漢字を直接書き込んで練習するにはできていないが、10ミリ方眼ノートで“石川塾学年の漢字書き取り”風に青線を引いてひとまず新しい漢字と熟語をステップ毎に書き出している。これを終えたら、過去問とステップ毎の練習問題に取り組んでいく予定だ。算数検定も過去問を繰り返し練習し7級にチャレンジした。結果がもうすぐ発表にはなるが、分数の計算と割合の計算はおさらいが必要だ。一学年先の算数に取り組むことで課題がはっきりする点が算数検定の魅力と感じている。国語の要旨要約も、抜き書きで200字以内に要約するという字数との戦いに挑んでいる。『理想の国語教科書』でいろいろな言葉の栄養を吸収して豊かに成長していくと思うとわくわくするではないか(笑) 学習のこととは別に…家で縄跳び中に右足を骨折。学年最後のイベントなどに参加できなくなり落ち込んでいたが優しいクラスメイトに支えられ休み時間は友達とイラスト描きに熱中しているようだ。本は、さくらももこのエッセイを好んで読み漁っている…。もう買えるものはほとんど揃えたほどだ(笑)

☆アナ(1年生): 漢字検定9級合格 ♡英語検定アセット3級合格 ♡算数検定10級受験 ♡

【まだまだ絵本が大好き ♡怖い話の本も好む ♡テニス特訓イベントでテニスに火がついた ♡】

前回の受験の悔しさをバネに…漢字検定9級の勉強に毎日取り組み見事合格 ♡すぐに「次の級も受けたい！」と8級の対策を始めた。取り組み方は前回同様『徹底反復 ○年生の漢字』(陰山 英男/小学館)で新しい漢字の練習をすることと、今回から新しく過去問大問1の漢字の読みも並行して取り組んでいる。漢字の読みは石川塾の“学年の漢字読み”が小学4年生まで進んでいることもあり、あまり間違えることなく読めているし読めるので取り組みにも意欲的である。漢字の書き順プリントが終わったら、過去問を1回分ずつ解いていく予定だ。算数検定10級にもチャレンジしこちらは近々結果が発表される。検定試験までに3桁の足し算引き算のひっ算は習得できたので、今は覚え途中の掛け算の練習を ♡トイレにも…玄関にも…階段にも…九九の表を張り付けて…暗唱せずにはいられない環境を提供中(笑) 徐々に覚えてきたようで、分かるところから足して答えを考える方法も勝手に習得した。英語検定5級はあと一歩及ばずリベンジすることに。毎日過去問と単語の練習を頑張っている。キーワードを見つけるのが早くなり、正答率も上がっているし、英文もだんだん読めるようになってきた。自分でもできている実感があるようで、新しい問題が出てきても、自分で解こうとする姿がみられる。読書は、「イッキに読める名作選3年生」に取り組んでいるが、まだまだ一緒に読んでという状態。一人で読む本は絵本の方が多い。少しずつではあるが好きな小説や怪談なども読み始めている。体を動かすことが大好きなアナ。テニスイベントでプロテニスプレイヤーとテニスの特訓(am9時~pm4時)をし、もっとテニスの練習をしたいとレッスンを週2回に増やした。本当は毎日行きたいそうだが…(笑) 一緒に本気で打ち合える日も近いかな ♡楽しみ楽しみ ♡

アンとアナの本



『焼きそばうえた』(さくらももこ/集英社文庫) 『いきもの図鑑』(さくらももこ/集英社文庫) 『そういうふうにはできている』(さくらももこ/新潮文庫) 『ぼくたちまたなかよしさ!』(ハンス・ウィルヘルム/評論社) 『意味がわからない怖い4コマ』(湖西昌/双葉社)

パパ日記 パパ失態、そのとき…

しばらく行けてなかった静岡の実家へ正月に帰省することにしていた。戻ってくる3日の新幹線は混雑がすさまじく指定席がないと危険なので1か月前に買っておいた。正月に実家へ向かうため小田急線で小田原駅へ着いて新幹線に乗り換えようとしたその時、あれ?切符がない…。なんと切符を自宅に忘れてきてしまった! 帰りの3日の指定はすでに満席。切符がないと指定席の場所もわからず、これは相模大野まで戻って取ってくるしかない…。今から戻ることになったら子どもたち怒るよなあ。「ごめんね、戻らないとだめだあ」と話したら「えー」と言いながらもパパを非難せずにしょうがないよと言って少しショックを受けている自分を慰めてくれた。そんな癒しに気を取り直し、小田原相模大野間を往復する我が家の新年スタートでした。

■公立中高一貫受験講座■

◎必要なのは基礎学力と読解力記述力♥問題文から答えを導く♥



【公立中高一貫校受験テキスト例】「思考力で合格! 公立中高一貫校適性検査対策問題集 算数的分野」(早稲田進学会 / 朝日学生新聞社) / 「考察力で合格! 公立中高一貫校適性検査対策問題集 理科的分野」(早稲田進学会 / 朝日学生新聞社) / 「分析力で合格! 公立中高一貫校適性検査対策 社会的分野」(早稲田進学会 / 朝日学生新聞社) / 「作文力で合格! 公立中高一貫校適性検査対策問題集」(朝日学生新聞社) / 「作文力で合格! 2 公立中高一貫校適性検査対策問題集」(朝日学生新聞社) / 「でる順グラフ問題 公立中高一貫校対策」(吉原 功/朝日新聞出版) / 「でる順過去問公立中高一貫校適性検査合格への126問 首都圏版」(旺文社)



【私立中学校受験テキスト例】「予習シリーズ算数 4・5・6年 上・下」(四谷大塚) / 「予習シリーズ理科 4・5・6年 上・下」(四谷大塚) / 「予習シリーズ社会 4・5・6年 上・下」(四谷大塚) / 「ウイニングステップ 小学4・5・6年 理科」 / 「ウイニングステップ 小学4・5・6年 社会」(みくに出版) / 「円の転がりの攻略/回転体の攻略/立方体の切断の攻略(受験脳を作る)」(学研プラス)

■<中学受験準備>理科・社会反復プリント講座■

◎5回読んで書いて聞いて見て覚える♥◎

- 『陰山メソッド 徹底反復 理科プリント 小学校3～6年』
(陰山英男/小学館)
- 『陰山メソッド 徹底反復 社会プリント 小学校3～6年』
(陰山英男/小学館)



■<中学受験準備>サイエンス&ヒストリーノートづくり講座■

◎興味のあることを調べる♥ノートにまとめる♥思考力・考察力・分析力の基礎♥

- 「カラー 生物・生命科学大図鑑 未知への探求」

(マイケル・J. パディラ イオアニス ミアオーリス マーサ シュール/西村書店)

<内容>アメリカ発! 米国で広く使われている生物教科書(全954ページ)

●1部細菌から植物●2部動物●3部細胞と遺伝●4部ヒトの生物学と人体●5部環境の科学
からなり、各部が4章～7章で構成されている。この1冊で生物・生命科学に関する知識を網羅。

- 「漫画サピエンス全史 人類の誕生編/文明の正体編」

(ユヴァル・ノア・ハラリ/ダヴィッド・ヴァンデルムーレン/ダニエル・カザナヴ/安原和見:翻訳/河出書房新社)

<人類の誕生編:内容>●サバンナの反逆者●虚構の達人●性と嘘と洞窟壁画
●大陸をまたにける連続殺人犯

<文明の正体編:内容>●誰がために麦はなる●神話と人間●迷宮の中へ
●虚構博士の恐怖の犯罪



月・水・金以外もご相談ください♥生徒募集中♥紹介者には謝礼あり♥

体験授業は3回無料です。まずは授業体験を…お待ちしております。

お問合せは…TEL042-710-5768 読み書き算数 石川塾

●2022年度 石川塾 検定試験日程●

数検の日程

2022/6/4/土曜 15:00～17:00
2022/9/24/土曜 15:00～17:00
2022/12/3/土曜 15:00～17:00
2023/3/4/土曜 15:00～17:00

漢検の日程

2022/6/25/土曜 15:00～17:00
2022/9/3/土曜 15:00～17:00
2022/10/29/土曜 15:00～17:00
2023/1/28/土曜 15:00～17:00

♡♡「英検2級・準2級対策・大学受験英語」講座人気急上昇中♡♡

いま石川塾には…英検2級・準2級・大学受験学習者が7名います！

(2級)小6のコウダイ君・中3のヨシマサ君(1次合格)・高2のカズテル君・カノンさん
(準2級)小4のリホさん・中2のナツネさん・中2のセイガ君

■石川塾での英検/大学受験勉強の進め方■

問題の英文をノートの左ページに日本語を右ページに書く
英文と日本語を対照/主語と動詞/目的語と補語/修飾語にマーク
選択肢の英単語を全て辞書で引いたあと/全問テストで覚える
英語の5文型/文法の理解を深め構文を押さえて速読で♡
イッキに♡英文の頭から正確に素早く文章の意味を捉えていく
英語授業:副読本♡好きな英語の本を1冊選んで読んでいきます



お申し込み・お問合せは石川塾まで♡電話 042-710-5768

<左:5年前><5年後現在小4・小1・喜寿・高2>

□塾の遠足「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

●わが子と遊ぶ/わが子と歩む/わが子の歩み/わが子に学ぶ/鎌倉逗子葉山海浜を歩き土の道を歩く/塾の遠足はほぼ毎月/家族友だち知人どなたでも参加できます/2歳からの読み書き算数塾・大人のための石川ゼミ/本がいっぱいの教室/夢中な本/午前・午後・夜間いつでもお越しください/お友達の写真はホームページでご覧になれます ■「町田 読み書き算数塾 石川ゼミ」検索■

●スタッフ・浅沼花音からのVOICE●石川塾で働き始めて1年4か月が経過し、高校三年生になりました。生徒たちへの指導、関わりを重ねる度にさまざまな新しいことを知り自分の知識が増えていき、より良い指導の仕方や接し方を学ぶことができました。4月になり新しい環境や勉強面に不安を抱える生徒もいると思いますが、しっかりサポートしていきますのでよろしくお願いいたします■

●スタッフ・橋本結美からのVOICE●個々の学習進度や習熟度に合わせたカリキュラムは得意な事を伸ばし、苦手な事は復習やスモールステップで徹底的に学習できる所が良い所です。わからない問題を繰り返し一緒に学び続けることで「あ！分かった！」という瞬間に見せてくれる笑顔がとても嬉しいです。新年度も遠足やワークショップなど企画がたくさん！一緒に楽しみましょう♪■

●編集長・渡邊光樹からのVOICE●読み書き算数石川塾は2歳から入塾できます。未就園児にはモンテッソーリ教育の読み書き算数につながる授業を中心に、未就学児には読み書き算数の基礎を教え小学校入学までに、ひらがな・カタカナの読み書き、漢字交じり文の読み、1年生の漢字の書き取り、繰り上がり繰り下がり計算、図形の模写ができるように授業を行っています。日本でもフランスのように3歳から全員「公教育」を受けられるようにしていきたい■

□ホームページの「new 体験学習ガイド」欄に(俳句と写真■写真:kumi■/幼児教室/石川ゼミ/国語専科)を掲載しています

●編集兼発行人・石川剛からのVOICE●「3歳からは全員、学校に行く」(第5章)/巻末に「保育学校5分野での学習目標」が掲載されている(本誌3p)/その4に「自分でものを考えるための基本技術を身につける」1)数を使う2)数を学ぶ3)図形を学ぶ:幾つかの平面図形の名前を言える・幾つかの立体を見分けられる・平面図を写したり、書くことができる/高崎順子氏は言う/フランスの保育学校から得られる一番の示唆は「初めは個人の熱意だった」と/「然り!」/生徒一人一人の成長を促す良い教材作り/時機に叶った適切な良い指導/将来良い仕事をするに必要な学習力をつける■

□石川塾長に「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

□<2022年 春号「千の声 VOICE」第16号>令和4年3月25日発行■HP「千の声ボイス」にバックナンバーを掲載

■〒194-0021 町田市中町1-30-8 菅井町田ビル2F/町高通り・税務署近く■☎042-710-5768